

地域母子保健福祉情報紙 No.288

公益社団法人 母子保健推進会議

親子保健

お や こ ほ け ん

定款第 1 章第 3 条 目的 (抜粋)
国及び地方自治体
関係諸団体と連携協力して
母子保健の重要性を啓発し
母性の健康を守り たかめ
心身ともに健全な児童の
出生と育成に寄与してまいります

「子育ては大変だけど最高に楽しい！」を伝えたい



高村壽子理事長
協力 NPO法人とちぎみらい
withピア 横山和世氏
進行 本会議理事長 鍵溝和子

親子向けのイベントや居場所づくりも

－「さのわ」を立ち上げられた経緯や思い、活動の概要などについて、教えていただけますか。

小林 「さのわ」として活動を始めたのは令和5年5月です。それ以前から、秋山とは同じ幼稚園の保護者会で、私は会長、秋山が副会長をしていました。現在は立場が入れ替わっております。各幼稚園のPTA会長の集まりである幼稚園PTA連合会でも私は会長をしていたのですが、そこで僕は、幼稚園の保護者の声をいろいろ聞くことができました。例えば、習い事をどうする、スマホやゲームとの付き合い方ってどうしてる？ ママのパパに言いたい本

音って何？ など。それをまとめて市に伝えたり、アンケートをとりその結果を市長に伝えるという機会もありました。そんな中で、保育園の保護者も交えた集まりができたらいよね、さらには小学校、中学校の保護者も交え、横と縦に広がりを持った保護者の集まりを作って、保護者の想いを継続的に市に伝えていけたらと考えました。そして令和5年、幼稚園の保護者会の役員をしていた秋山ははじめ数名に声をかけ「さのわ」の活動が始まりました。

当初は、子育てに関する情報を発信して、そこでつながった人たちの声を集めて市に伝えていこうと考えていたのですが、活動していく中で、保護者と子どもが安心して参加できるようなイベントや保護者が集まれる場所を用意することを軸として活動するようになりました。最近の活動としては、「佐野市子ども子育てフォーラム」という佐野市が東京大学と連携し佐野Strong Start研究会が主催しているイベントに参加させていただき、保護者の目線で質問等させていただきました。ほか、消しゴムではんこづくりをしたり、親子で土器づくりに挑戦するイベントも行いました。

「ふれすた」という放課後の居場所づくりにチャレンジしています。子どもが放

左から小林代表、鍵溝、秋山副代表、高村理事長

子育てに積極的な父親が多くなってきている一方で、父親の産後うつが増加や父親支援のあり方に悩む自治体の声も聞かれます。

このたび、栃木県佐野市で「楽しく安心して子育てができるまちづくり」を目指して活動するNPO団体「さのわ」の代表と副代表に、活動の実際と父親の視点からの妊娠期からの関わり的重要性、父親支援のあり方などについて話を伺った。

出席 さのわ代表 小林宏基氏
さのわ副代表 秋山俊介氏
NPO法人とちぎみらいwithピア

今月のページ

「子育ては大変だけど最高に楽しい！」を伝えたい 父親が妊娠期から関わることの重要性と父親支援を中心に……………	1
紙上セミナー：8020の里づくり「妊娠期～産後の歯科について」 8020ひとくちメモ「虐待と歯科のかかわり」……………	6
未来を拓く子供支援フォーラム開催／ 優れもの 子育てって大変だけど楽しい・のんびり子育て応援Book／編集帖……………	8

課後安心して過ごせる場所がありませんという声を保護者の方からいただいたので、それなら自分たちでできる範囲でやってみようとチャレンジしています。毎週2回、午後4時から6時までの2時間小学生と、昨年11月からは中学生も受け入れています。

秋山 私は佐野市幼稚園PTA連合会の会長もしていますので、保護者として市と話をする機会もあるのですが、長く活動してきた団体が拾っていない声がたくさんあるのです。例えば、父親としてどうやって子育てをするのか、父親の役割など長い年月の中で変化してきているのに、相談できる場がない、声を上げにくい状況があり、それが、私がこの活動を始めた出発点です。

小林 もう1点大切なことに、佐野市の子どもが減っていることがあります。20年くらい前は年間出生数は1,000人くらいと聞いていますが、既に600人を切っている、4割以上減っているということに危機感を持っています。僕は3人子どもがいますが、保護者目線で、もっと子育てが楽しめるような環境を、佐野市で子育てをしたいと思ってもらえるような環境づくりをしていけたらという大きな想いもあります。

— そのような想い、活動の中で「とちぎみらいwithピア」の活動の一環である『パパピアカフェ』とつながったのですね。

秋山 たまたま私が市のこどもの国の施設



パパピアカフェで悩みや不安を分かち合うパパたち

に行ったときにもらったのが、「とちぎみらいwithピア」さんの『パパピアカフェ』の案内チラシだったのです。「さののわ」の活動を立ち上げて半年くらいのおきだったので関心があり、その場ですぐに申し込み、そこから交流が始まりました。

車の両輪、パパにも『パパピアカフェ』を
— 「とちぎみらいwithピア」で『パパピアカフェ』を企画されたのは、どのようなお考えからでしょうか。

高村 「とちぎみらいwithピア」を立ち上げた途端にコロナが蔓延して、コロナ禍で孤立した子育てをしているママたちが、人と関わるのも大切だけど、しっかり自分を見つめて、自分は何を求めて生きているのかということ自身の中に据えることによって、子育てに対する意欲、喜びが回復していき虐待予防などにもつながっていくと考え、クラスを行いました。

参加したママから、孤立していたので救われた気持ち、でもこれってパパだって必要だよ、とつぶやいたママがいたのです。子育ては、パパとママが車の両輪のように互いの役割を生かしながらするものですね。でしたらパパにもそういうアプローチというか必要性を感じて決めました。もう一つ、ママピアカフェに2組とも連れの夫婦がいらして、僕たちもこういうクラス

が欲しいという要望があったこともあります。

『パパピアカフェ』を行ってみて感じたのは、パパは、自分自身がどう生きたいのか、ということは置いておいて、まずは子育てをとっているのではないかと考え、エンカウンターという、本音と本音、心と心の交

流を通し関係性を高める手法を少しだけ取り入れたのです。そうしたら小林代表が、自分自身



小林代表

ここで確認できて、これからの自分のやりたいことが改めて位置づけられた、とってくださいました。それを聞いて、パパだって同じなんだ、自分自身を見つめ直して子育てへの意欲を駆り立てる。ぜひ、『パパピアカフェ』を継続的にやりたい、同窓会もできたらと思いました。

小林 実は昨年12月に、「さののわ」でコーヒーを飲みながらパパたちが語り合う座談会を企画したのですが、参加者が一人もいらっしやなかったのです。その結果を踏まえ役員で話をしていた時に、パパのマインドとして、そういうところに行くこと、自分の子育てを否定されるのではないかという不安や、自分より子育てにコミットしている人の話を聞くかもしれない、プライドもあり、行かなくていいなら行かないのではないかと、という話をしました。

秋山 そのとき女性メンバーから言われたのは、大半のパパは、本音を言ってしまうと、子育てはやらなくていいのであればやりたくないという人がまだたくさんいる。そういう人たちに対して、会に出てきて子どもの話、子育ての話をしようというのがハードルが高かったのではと。

社会情勢的に我々父親は、育児の話をするとき怒られる側というか、足りてない、間違っている、気が利かない、というようなことを、あらゆる世代から言われているので、恐らく多くのパパの気持ちとしてあ



秋山副代表

ると思います。参加して、それを蒸し返されるのであれば、疲れるだけだし、家にいた方がいい、となる。

してます？ 病院に行き過ぎじゃないですか、という話をすると、そうだよ、と。ここで初めて、みんなそうなんだ、と共有し合える場があったことは、『パパピアカフェ』のとき、すごく感じました。

— パパのもやもや感、ストレスは、それを吐き出す場が必要ではと思いますが、日ごろは心に蓋をしている感じですか？

小林 僕の場合は、ある程度時間のやりくりができる仕事なので、そんなにストレスが溜まることはないですね。幼稚園の保護者会で集まった時に話をしたり、ガス抜きをしていたところはあるかもしれません。

秋山 僕の場合は、主たる収入は確保しながら、育児と家事をしていたときにパンクしかけたことがあります。うちの奥さんはつわりがひどかったので、妊娠期から僕が家事を全部、仕事もしなきゃいけない、辛過ぎないかこれって思ったときに、相談先も見つからない。仕事とのバランスや、もう無理だから奥さんにご免できないと言っていいよ、という、相談を受けてくれるところもない、という時期がありました。

そういう気持ちを吐き出せるという意味では、先ほど小林さんも言っていたように、こどもが幼稚園に入って初めて、家事育児をそこそこやっていて、それを誇らしげに語らずにフラットに話せる人がいた、大げ

さな意味ではなく助かった!と感じました。

空気を読むのは…

秋山 僕たちは無意識のうちに空気を読むというか、幼稚園の行事に来ているパパに対しても、この人は積極的に育児をするタイプではないな、と察すると、こどものお弁当は基本私が作ります、みたいなことを言うとはよくないという感覚があるんです。パパ同士はそのあたりのこと、結構気にしていると思います。

小林 めちゃくちゃ気にします。やってますアピールをしたい訳ではないので、この人はどうかなと考えます。

秋山 ぼろっと言ってしまったときに、やってますねえというリアクションや、奥さんに伝わったときに、あまりいいリアクションが来ない。うちの奥さんは仕事をしているので、家事育児の分担が、多分他の家庭と比率が少し違うだけだと思うのですが。パパ同士の会話で気を遣いながら話している感じはあります。していることのアピールになる嫌さもあり、です。

小林 雰囲気なんだと思うんです。もちろん制度的に何かできることがあるのかもしれないですけど、うちは5：5でやっているのが当たり前で、あそこのうちは7：3でやっている、それぞれの家族の中でOK

気持ちを共有できる場があると楽に

小林 『パパピアカフェ』に参加した時に感じたのは、傷をなめ合える場というか、やっぱりそうですよね、そこはうまくいかないですよ、ということを言い合えた。これが正解ですということではなく、例えば「食器の洗い方とか、言われるよね」「やっぱそうだよ」みたいなことが共有できると気持ちが楽になる部分があって、すごくよかったと思いました。

秋山 そうですね。性別で分けるのはよくないですが、夫婦で子育てをしていると、ママの方が細やかにみる傾向があると思います。健康面でも、私の感覚だと、単なる風邪だから、放っておいても治るだろう、というのが男性の発想です。必要に応じて情報は調べますが、ただと奥さんには怒られる。

父親が集まった時に、こういうときどう

お口の恋人
LOTTE

むし歯のない社会へ。
ロッテ キシリトールガム

もっとおいしく、歯を丈夫で健康に。キシリトールの世界が広がりました。
大切な歯のために、キシリトール習慣！

消費者庁許可 保健機能食品(特定保健用食品) (公財)日本学校保健会推薦 (一社)日本学校歯科医会推薦

食品初! **日本歯科医師会推薦商品** **XYLITOL**

www.lotte.co.jp
かんだ後は包んでくずかごへ。

で幸せな状態が保てているのであれば、それでいいと思うのです。そして5:5と7:3の人が話をしても角が立たない、大変なんですね、うちもうちちょっとやってみようかと、フラットに言えるようになればいいなと思うのです。

秋山 社会の雰囲気づくりみたいな部分を、行政なのかわからないですけどフォローしてもらえるとありがたいと思います。育児の話をしていても、いきつくのは仕事が休めない、仕事の調整が、となる。必要なときには休めるような社会の雰囲気ができたらいいと思います。こどもが病気ののに、なんでお前、会社に来てるんだって、上のポジションの人が言ってほしい。我々世代は空気の読み合いになってしまうので。

小林 市長さんなのか商工会なのか、影響力のある人が、こういう市にしていこう、と言ってくれたらいいなと思います。

ゆとりができると当事者意識も増して

— 小林さんはお子さんが3人いらっしゃるとのことですが、ご自身の子育てについて、最初のお子さんの時から変わったと感じられることはありますか？

小林 すごく変わりましたね。1人目に比べて3人目の方が当事者意識が強くなったような気がしますし、ノウハウが身についたことで、余裕が出てきたこともあるかもしれません。1人目のときは、なんでも奥さんに聞いて、いやいやあなたのこどもでしょ、わからなかったら、自分で調べるなりなんなりしたら、と言われたことがすごく刺さりました。今は、わからないことが出てきたら自分で調べますので、それにより、こどもに対するアプローチも変わってきたかなと思います。

秋山 調べることにしてですが、男性は、

マニュアルを読むのが好きな人が結構多いので、やさしく書かれているものより、科学的根拠をもってしっかり書かれているものの方が読むと思います。

— ネットで検索するのではなくですか？

秋山 ネットで検索して出てくるものは正しいかどうか、わからない。カリスマママの経験談ではなく、科学的な根拠があるもので、それが行政や大学など専門機関から出ていると信頼できます。

高村 聞いていて思ったのですが、パパもいろいろ、多様性に応じた支援マニュアルのようなものが必要なかなと。

小林 難しいのですが、例えば、僕らはこどものお弁当を作りますが、それは時間があるからで、それを過度にすごい、と言わなくていいと思うんですね。うちの祖母も、僕がこどもに関わっているとすごい、妻が同じことをしても、そうは言わない。それ、すごく心が痛むんですよ。イクメンって持ち上げるブームはもう終わっています。

秋山 褒められるのと感謝されるのは違います。嬉しいのは感謝。育児のことを自分で調べてやったときに、奥さんに、すごい、そんなのあるんだって言われるとうれしいですが、外の方から褒められても、ハイハイしていた赤ちゃんが立ち上がった時に褒められるのと同じ感じで。

職場、社会の環境づくりが必要

秋山 若手の社長さんが、こどもの健診や通院のために休みを取ったら、そういう環境づくりが、父親支援という言い方なのかわかりませんが、必要なかと思います。

小林 イメージとしては、門戸を開くような感じででしょうか。今はまだ、父親がこど



とちぎみらい with ピアによる「ママピアカフェ」にパパも

もに関わるには、扉を開けづらいような空気があると思うのです。もっと父親の前の扉が開いて、それぞれの生活スタイルに合わせて、誰でも自由に行けるような感じになると、あえて支援としなくても、子育てがやりやすくなるのかなと思います。

秋山 幼稚園の卒園制作で、埴輪づくりをしたのですが、一晩交代で薪をくべなければならず父親が交代で担当したのですが、ふとした話から盛り上がり、楽しかったですね。そこから考えたのですが、話をすることが目的ではなく、他の目的で集まってだったら話ができるのではないかと考えているところです。

高村 ミッションがあるといいですね。

秋山 はい、そしてそれが、役割がある、必要とされているとなると、では行くか、となる。それともう1点、教育業界にいる者として、今変わってきていることをすごく感じます。我々のこども世代は、男女は完全に平等だと思っているし、高校生も、男女とも料理も育児もするのが当たり前だと思っている。この世代が上がってくるときに老害にならない心構えをしておく必要があると思います。

「役割」をキーワードに

高村 母性の役割、父性の役割、母性はつながら、父性は分断。3歳の時にけじめが大事と言われているのだけれど、役割と



高村理事長

というのがキーワードではないですか？共感して共有する、父親支援として、こんなことしてほしいという

提言をすればしたら、そのあたりが大事な。今までのやり方は、一律の支援だったと思うので。

秋山 基本的には家族向けのイベントで、力仕事があるからパパがいるといいよね、そこに、さくらの僕らが入って、一緒に薪を割ったりしながら子育ての話をしつつする。そこまでしないと、育児に及び腰なパパまで巻き込めないと思います。

父親の意識を変えるという意味では、行政や企業の経営者などから、この研修を受け、育休は必ず取れと、仕事として、トップダウンで指示していただくのがよいのではと思います。

小林 お父さんの参加に関して、以前うちの幼稚園では、保護者全員が何かしらの係になる。力仕事は必然的に父親が集まります。行事の時にテントを立てたり、組み立て式のプールを設営したり、その場ではあまり話をしなくても、打ち上げで酒を飲みながら話している中で、こどもの話なども出てくると自然と話ができます。

高村 企業の地域貢献というのが言われていますよね。地域のお祭りにも協賛しているし。そういう機会に、父親の役割を代入むといいいのでは？

秋山 そうですね。出勤扱いだとしっかり役割を果たすでしょうし。その中で、父親同士が話をする機会を創出することができればいいですね。

父親が考える父親支援とは

小林 父親支援についてですが、最近では、父親も産前産後にメンタルヘルスの不調に陥りやすいと聞きますが、そのための支援というと、不調になった人が相談に行ったり、医療機関かどこかにつないでもらったりするのでしょうか。だとすると難しいですね。アプローチするお父さんは、そんなに多くないだろうと思います。本当に苦しかったら相談することもあるかもしれませんが、その手前でどこかにつながるとなると、どうなのでしょう。

秋山 弱った時に弱ったと言える男性は少ないと思います。だからこそ、地域でつながってほしいと思います。それから不調になる原因として、男性の場合、子どもが生まれて、突然わからないことばかりということもあるのかなと思います。

ママパパ学級で学んだことも、育児をするようになって初めて、ちゃんと勉強しなくてはいけないところだったんだと身に沁みました。例えば抱っこも、いずれ必要になるから、というようなほんわかとした感覚で、当事者意識が薄かったという反省はありますが、産婦人科から連れて帰る瞬間に、今なんだと。沐浴ほかすべてのことがそうでしたので、仕事をしながらですし、大変でした。

企業には、従業員に検診を受けさせる義務がありますよね。それと同様に、こどもの健診、いや奥さんの妊婦健診から男性も行くことを義務化してくれるといいですね。それにより、妊娠期から当事者意識が芽生え、それは、家族全員のためでもある。

小林 メリットを明確に打ち出せるといいですね。父親が産前から関わることが、どれだけプラスに作用するかということ企業側も理解して、だからあなたは仕

事があっても行くだ、というように言ってもらえる仕組みを、行政なのかわかりませんが、作ってくれるとよいと思います。

秋山 ママパパ学級の時に、先輩パパが、自分の経験談や、こうしているというような話をする、父親が子育てをするのが当たり前、というようなことが妊娠期にわかると、一番後押しになると思います。

小林 母親のメンタルヘルスケアが父親の役割としてあると思うので、産前から関わるということ、市として、まず職員から実践して、そんな空気から企業も追従するということになればいいですね。

子どもがいるって最高に楽しい！

秋山 女性は、命をおなかに宿した瞬間から母親なのに、男性は子どもが生まれて初めて、実感として父親になった気になるという唐突さがあり、それが父親の産後うつにつながることもあるのかなと思うと、産前からの父親の関り方を制度設計していただくと、おなかの中に命が宿った時から父親だと思えることができ、先ほど高村先生が仰ったように、妊娠期から、車の両輪のように子育てをしていくことが、現実的になっていくのかなと思います。

小林 女性のからだのこととかほとんど知らないまま結婚して父親になって、同じことでも感じ方がこんなに違うんだということは今さらながらわかることもあり、奥さんには申し訳なく思います。

妊娠期から関わることの重要性などを、父親にはもちろんのこと、企業に理解してもらうことを、国レベルで取り組んでほしいですね。加えて、そんな大変な思いをしても「子どもがいるって最高に楽しい」ということを伝えていただくことが“父親支援”になるのではと思います。

紙上セミナー
SEMINAR

8020の星づくり

妊娠期～産後の歯科について

今回は妊娠から産後までの間の歯科とのかかわり方をテーマに書いてみることにします。まずは、妊娠期の口腔内について改めてその特徴や対応策についておさらいをしていきましょう。

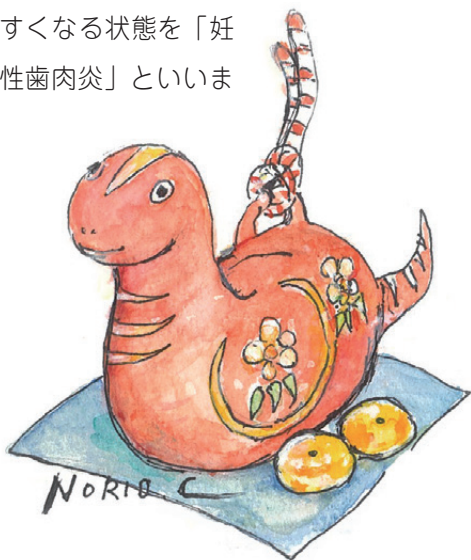
ご存知のように、妊娠中はホルモンの変化に合わせ、口腔内にも様々な変化が起こります。そして毎日の生活はもちろん場合によっては胎児にも影響を及ぼすことがあるため、十分な理解が必要となります。

ホルモンバランスの変化とその影響

妊娠をすると女性ホルモンが急激に増加し、次のような変化が起こってきます。

☀ 歯肉炎になりやすい ☀

通常よりも歯茎が腫れたり、出血しやすくなる状態を「妊娠性歯肉炎」といいます。



起きやすくなります。また妊娠が成立すると胎児を守るために母体の免疫機能が抑制され、より細菌感染を起こしやすい状態に陥るのです。

稀に歯と歯茎の間などに「妊娠性エプーリス」という腫瘍ができることがあります。これも女性ホルモンの急激な増加が原因となります。良性腫瘍で多くの場合は産後に自然消失しますが、出産までは定期的に歯科を受診し状態を観察していく必要があります。特に大きいものや痛みを伴い症状が強い場合には、除去することがあります。

☀ むし歯になりやすい ☀

妊娠といえはつわりの時期がありますが、個人差はあるものの、とにかく気分が悪く、歯ブラシを見ただけで唾液腺が締まるような、そんな気持ち悪さが出てきます。

この頃には酸っぱいものを頻りに摂取したり、1度にたくさん食べられないため、ちょこちょこつまみ食いをしてやり過ごしたり、歯をみがくなんてとんでもない！という日々が続くので、口腔内の酸性度はご想像通りです。また口腔内の自浄作用を保つ唾液の分泌量も減少してしまうため、カリエスリスクは一気に上がることとなります。もち

ろんエチケットとして口臭も気にかけた方が良いでしょう。

口腔内の変化とその影響

妊娠をすると口腔内は様々なリスクにさらされますが、特に歯周病が進行すると早産を誘発する可能性があることは皆さんもご存知だと思います。歯肉に炎症が起きると免疫反応によりサイトカインという伝達物質が生成され、これが子宮筋を収縮させるプロスタグランジンというホルモンに作用して早産につながる、という流れです。歯周病の進んだ妊婦さんはそうでない妊婦さんと比べて、早産のリスクが約7倍以上も高くなるとの研究報告がなされています。もちろん低体重児出産のリスクも同様となります。

次に、むし歯の放置についてですが、こちらは言わずもがな、といったところ です。

胎児はもちろん母体からの栄養で育まれていきますので、歯に痛みがあったり穴が開いていてしっかり噛めないなど、症状があれば当然食べるもの(食べられるもの)にも偏りが出てきて、結果赤ちゃんの栄養摂取にも影響する可能性があります。

妊娠期の口腔内対策

口腔内を清潔に保つ基本はやはり「適切な歯みがき」ということとなりますが、前段で述べたようにつわりの時期のブラッシングはなかなか厳しいものです。対策としては、氷や冷水で口腔内を冷やして気持ち悪さを逃してから歯ブラシをする方法や、小さいヘッドの歯ブラシを使うのも良い

でしょう。それでもうまくいかない場合は、抗菌剤の入ったデンタルリンスやうがい薬の併用もお薦めです。

次に妊娠中の歯科受診についてですが、治療を受ける際には胎児や母体への影響を考慮してそれぞれのステージに合った適切な処置を受けることが大切です。

〈妊娠初期～15週〉

この時期は胎児の器官形成期なので、薬剤や放射線の影響を受けやすく注意が必要です。緊急性の高い場合を除き大規模な治療は避けた方が良いでしょう。応急処置と歯のクリーニングなどが中心となります。また万が一治療上どうしても服薬の必要がある場合は、薬を飲むメリットが飲まない場合のデメリットを上回る場合に限り、必要最低限の量で処方することとなります。

〈妊娠中期16～27週〉

安定期に入ると大体の治療は可能ですが、妊婦に使用できる薬剤の種類は限られていますので、服薬が必要な場合は歯科医師とよく相談してください。なお治療上の局所麻酔の胎児

への影響はほとんどないと考えられています。またレントゲン撮影は口腔内の限られた部分の撮影で、もちろん防護エプロンの着用をしますので心配ありません。出産後を考えて必要な治療は済ませておく時期です。

〈妊娠後期28週～〉

胎児がどんどん成長しお腹も大きくなってきますので仰向けになると、下大静脈が圧迫されて血圧が下がる「ぎょうが いっていつあつしやうこうぐん仰臥位低血圧症候群」を起こしやすくなります。歯科治療時の水平位は母体への負担が大きいので、受診時の姿勢には気を付けなければなりません。

〈産後〉

妊娠・出産は、女性の身体にとって急激な体内バランスの変化による、まるで荒波を超えるようなライフイベントです。産後はまずは体力の回復など体調を整えることが優先です。緊急時を除いて、産後約1～2か月後くらい（体が落ち着いてからの）受診をお勧めします。かかりつけの歯科医がいない場合は市区町村などで「妊産婦健診」を行っているかと思っておりますので、問い合わせてみてください。自分

の口腔内の状況を把握し、どのような処置・治療が必要か、またその場合どのような方法でいつから受診を開始するかなどについて、あらかじめ相談しておくことが大切です。

現在歯科で処方される薬の多くは授乳中に使用しても安全とされていますが、念のため受診時に授乳中であることを伝えておいた方がいいでしょう。また、治療上で使用する歯科麻酔（浸潤麻酔）及びレントゲン撮影は母乳に影響はないとされています。

まとめ

妊娠は女性特有のライフステージで、約10か月間という月日かけた一大イベントです。体のバランスが変わることで不便なところもありますが、家族や周囲の人々の理解や協力、工夫があることで、母子ともに健やかな毎日を送ることができます。本稿が皆様の今後の活動の一助となることを希望して、そろそろ筆をおきたいと思います。

公益社団法人 日本歯科医師会

地域保健委員会委員 遠藤則子

8020 ひとくちメモ

昨今では、幼い子どもが心ない大人の虐待により命を落とすという大変痛ましいニュースを耳にすることが増えています。

平成19年には、児童（児童福祉法では0～18歳まで）の権利を守ることを目的に、「児童虐待防止等に関する法律」が施行されました。

しかしながら、まだまだ表面化

していない虐待が潜在していると考えられています。皆様も耳にされたことがあるかもしれませんが、虐待を受けている児童の口腔内の特徴に「ランパントカリエス」という状態があるのご存知でしょうか？いわゆる多発性のむし歯のことで、糖質の過剰摂取や口腔衛生の不良などが原因で起こる現象ですが、それを放

虐待と歯科のかかわり

置し口腔内が崩壊してしまうデンタルネグレクトを疑うケースとなります。

児童の口腔状況から虐待の早期発見につながることもありますので、健診などの機会において気がかりな口腔内の児童がいたら、ぜひその生活背景まで留意していただけると思っています。



未来を拓く子供応援フォーラム開催

議会、「体験の風をおこそう」運動推進委員会)

開会・主催者あいさつ、文部科学省による「青少年の体験活動の充実について」の行政説明に続き、公

益社団法人チャンス・フォー・チルドレン代表理事 今井悠介氏が「体験格差の現状と課題」をテーマに特別講演を行った。同団体では、経済的困難を抱える家庭の子どもたちが学校外で学べるしくみ、「スタディクーポン」を提供する活動を続けている。「多様な学びをすべての子どもに」というミッションのもとこの取り組みを続けてきた中で、学習以外の「体験」の機会を十分に届けられてこなかったという問題意識が生まれ、子どもの体験格差についての実態調査を実施。子どもの成長の機会や地域とつながる機会でもある「体験」の格差解消に向けた取り組みについて、墨田区での活動が報告された。

▲今井悠介氏による特別講演の様子

令和7年2月19日(水)、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、令和6年度「未来を拓く子供応援フォーラム」が開催された。(主催：国立青少年教育振興機構、「早寝早起き朝ごはん」全国協

益社団法人チャンス・フォー・チルドレン代表理事 今井悠介氏が「体験格差の現状と課題」をテーマに特別講演を行った。同団体では、経済的困難を抱える家庭の子どもたちが学校外で学べるしくみ、「スタディ



子育てに不安を抱えるお母さんに寄り添うメッセージが詰まった、母子保健指導の教材です。訪問面談時などに、ぜひ、ご活用ください。

◆子育てって、たいへんだけど楽しい！



■A4判2つ折り ■50円(税別)
●令和7年3月改訂
生後1～4か月のお子さんを持つお母さんたちへのメッセージ。メッセージカードふうのずらし折り仕様。
母子保健推進会議会長 佐藤拓代監修

◆のんびり子育て応援 Book



■B6変型 8P ■90円(税別)
●令和7年3月改訂
産後まもなくの頃から、子育てで多く寄せられる質問をもとに、小児科医からの子育てに関するアドバイスを8ページにまとめました。
・赤ちゃんの「泣き」は言葉
・甘え上手は子育て上手 など

お問い合わせ・お申込み bosui@bosui.or.jp FAX: 03-6902-2331
サンプルもご用意しております。この機会にぜひご検討ください。

※合計15,000円(税抜)以上の場合、送料は本会議が負担します。

編集帖

今号の巻頭特集では、自ら子育てをしながら、地域の子育て家族のニーズを汲み安心して楽しみながら子育てができるまちづくりを目指すお二人に話を伺った。人の感じ方、考え方は、その人のバックグラウンドや価値観によって異なることは言うまでもない。ましてや、DEIが叫ばれる昨今である。しかし…、父親の視点、感覚が、母親と異なることもあると再認識させられた。妊娠期から子育て期の家族を対称とした事業、活動を考え

られる方々にとって、参考にしていただける点があれば幸いです。
梅が香しく感じて間もないこの頃、桜の開花予想が現実味を帯びてきた。3月は異動、卒業のシーズンである。わが事務所の入る建物には助産師学校が併設されているが、今日も、賑やかな声が飛び交い、教室の整理や卒業式の準備に追われていた。今まで挨拶を交わしてきた学生たちが、来月からは親子に寄り添う。心からの応援の拍手を送りたい。(Y)



発行：公益社団法人 母子保健推進会議
発行人：鎌溝和子 編集人：高村壽子
協力：全国母子保健推進員等連絡協議会
東京都文京区音羽1-19-18
東京都助産師会館 4F (〒112-0013)
TEL.03-6902-2311 FAX.03-6902-2331
Eメール bosui@bosui.or.jp
URL <http://www.bosui.or.jp>
年間購読料 2,640円(税干込み)
母子保健推進員等特別価格
年間購読料 1,320円(税干込み)
郵便振替口座 00120-9-612578

